

学校関係者評価まとめ

1 学校運営について

- ・学校だより等、地域に回覧してくださっていることで、学校の様子が分かり、子どもらに関心をもつことができてよかった。
- ・学校だより等地域に回覧していただいているので、学校のことがよく分かりありがたいと思っています。生徒指導通信もなかなか読みごたえがあります。ありがとうございます。
- ・学校通信やHPなどの情報発信、コロナ5類移行に伴い、オープンスクール等の再開など、開かれた学校づくりの推進がなされている。
- ・参加できる学校行事が増え、様子がよく分かるようになりました。
- ・業務改善、定時退勤、業務量が減らない中で進めることに苦勞されているだろう。一部の教員の負担増にならないように。
- ・教職員の残業を減らすということに取り組まれているのが良いと思います。業務改善・合理化を進めてください。
- ・最近の教職員の年齢構成をみると、経験知が豊富な40歳代の先生が少なくなってきたが、資質向上を図るために工夫がされ、努力されていることが伺える。
- ・校内での安全に対する点検や配慮、研修は良く行き届いているようだが、保護者アンケートで、通学路での事故等への危機感がある。学校だけでの対応は難しいと思うが、何らかの対応が必要かと思われる。
- ・災害時の危険性を考え、避難訓練等工夫を続けてもらいたい。

2 生徒指導について

- ・不登校、長欠の問題が大変大きく、教職員の方々のご苦勞も大きいことと思う。新たに不登校に対応する人材も派遣されるとの報道があったが、有効に活用できることを願う。
- ・全国的にも不登校生徒が多いという問題がありあますが、今後も大変だと思いますが、個々の対応をがんばってもらいたい。
- ・生徒指導は丁寧な教育相談から始まると思います。困ったことカードに書かないが本当に困ったときは表情に現れると思います。その時を見逃さないでほしいものです。「寄り添うべきは寄り添い、指導すべきは指導する」という姿勢を実践してほしいです。

- ・生徒の問題に対して、職員間および関係機関等への連絡・相談が迅速に行われ、対応に当たられていることが成果から伺える。そのことが保護者アンケートの項目4, 8の評価の数値（全項目の中で最も高い）や保護者の声となって表れているのだろう。
- ・スマホを持ち込んでいる生徒がおり、ルールが甘くなっているのではないかと感じます。
- ・言動や態度を生徒も保護者も見ていることを意識してほしいです。
- ・生徒会を交えた校則変更については、生徒たちが校則の本質を考え主体的に校則を守ろうとする態度に繋がると思います。主体的に行動することが少なくなっている生徒たちに主体的な行動が広がることを期待します。

3 学習活動について

- ・学習については、教職員の評価は低くないが、保護者アンケートでは評価点が最も低く、回答数も多い。小学校でも見受けられることだが、中学校では、理解面・意欲面で、個人差が大きくなっているのだろう。それが(－)回答と(＋)回答の両極端の声になっていることから推察できる。そのため、学習課題の工夫、少人数授業だけでなく、授業力の向上など、各方面から努力されている。まだ、課題も多いと思うが、3年生になると(2)の項目の評価がぐんと上がってきていることから、研究推進で挙げられている「学びの自覚化」が大事な要素になるのだろう。
- ・保護者アンケートの結果では「子どもは『学校の授業が分かりやすい』と言っている」という項目の評価が低くなっている点が気になります。授業を見せてもらったら、生徒たちは大変真面目に授業に参加していました。
- ・少人数クラスを取り入れ、細かな学習指導ができていると思います。
- ・少人数ならではの効果が出ているようで保護者のアンケートでも少人数だと発表しやすい。また、楽しい等の意見があるようです。数学は習熟度別少人数授業で理解の定着に繋がっているのはすばらしいと思います。
- ・少人数授業で積極的に発表する生徒が増えているのは良いことだと思う。
- ・講演会等著名人から直接話を聞ける機会が多くとれたこともよかったですと思います。

4 課題教育について

- ・道徳の授業では、ワークシートに書く時間を取り入れ、発言のなかった生徒たちの考えもしっかりとつかみ、丁寧に評価しようとしている取組がよいと思った。また、参観した授業では、その学年に適した教材を用意し、熱く授業されているところも見せていただいた。
- ・道徳の授業では、親子道徳を実施され、保護者の意見を盛り込んだ授業を展開されたことは素晴らしいと思います。また、生徒の意見を結論まで話すように持っていかれ、考えが深まったのは良かったと思います。
- ・道徳教育は、先生方もいろんな指導法を考えられていて、生徒も道徳について考えられていていいと思う。
- ・道徳教育では学年ごとのローテーション授業の実施、特別支援教育ではインクルーシブ教育の推進、キャリア教育ではキャリアプランニング能力の育成などをはじめ、今求められている教育の充実に取り組まれていると思います。
- ・一部の職員だけでなく、全職員がインクルーシブ教育の意識をもって指導にあたっておられ、支援学級の生徒の居場所が通常学級でできていることは素晴らしい。実際、小学校時代を見てきた生徒が中学校で実に明るく生き生きと過ごし、積極的に楽しく話しかけてきたことには、その変容に驚き、うれしく感動し、安心もした。
- ・体育祭が半日で短いため、あと1時間程度延ばし、部活動パレードができればいいと思います。

5 望ましい集団づくりについて

- ・清掃活動での美化・トイレコンクール、チェックリストの取組が継続的な意欲の動機付けにならなくても、その時期だけで一生懸命に清掃活動をするという経験が大事だと思う。
- ・校則を見直し、変更するという取組は、生徒たちにとって自分たちの学校や生活を見つめなおす機会となり、取組の中心にいた生徒たちにとっても「改革」を体感するよい機会となり、大いに意義のあるものになったと思われる。
- ・行事をとおして、学級がまとまることができ、その過程の中で、スムーズに進まず悩むこともあったが、最後まで到達できた喜びや仲間、集団としての成長をうれしそうに話してくれた生徒がいた。各学年で望ましい学年集団作りの目標を持ち、生徒を見守り支援されてきた教師集団の成果が表れたのであろう。

- ・コロナ禍も終わり、集団での活動にしっかり取り組んでいると思います。
- ・部活動では、ノ一部活デーを設定することで、技術向上と休養の両立が図れているのは良い事だと思います。
- ・行事について生徒全体で行われているようで、生徒たちが生き生きとして進められていると思う。
- ・保護者アンケート結果では「子どもは『学校での生活が楽しい』と言ってる」という項目の評価が高くなっている。これは、組織的な指導が充実していることの成果であると思います。

6 地域との関わりについて

- ・現在の小学校区では「地域の学校」という意識が地域住民にも強いが、広い校区での中学校ではそのような意識はもてないし、子どもの数が減り、中学生の姿などはほとんど見る事が無い。登下校中の姿をたまに見るくらい。唯一、学校日より、生徒指導通信が中学校を知るすべになっている。社学園になれば、小学校までがそうなるかと思うと寂しい限りだ。
- ・ホームページの更新回数、写真が増えればよいと思います。
- ・自転車登下校の時のヘルメット着用を徹底させていただきたいと思います。
- ・地域とのかかわりが減っていると思う。
- ・登下校で出会う生徒たちが気持ちよく挨拶をしてくれます。